

広報誌第21号

# 本庄児王病院



## contents

- 精神科コラム ······ P 1, P 2
- 院内研修 ······ P 3
- 院内行事 ······ P 4
- 作業療法士室だより ······ P 5
- 外来診療担当医/外来患者延数・入院患者数 ··· P 6
- 栄養課「栄養課での取組み」····· P 6

T367-0212

埼玉県本庄市児玉町児玉 720

Tel.0495-73-1611

Fax.0495-73-1616

## 「世界のみかた」

今回のコラムも抽象的であり、書き方や内容への賛否もあるうと思うが、筆者の中にもある多様な考え方の一つとして読んで頂ければ幸いである。

読者の関心があるかは分からぬが、まずは、これまであまり語ることのなかつた筆者の過去についての話から始めたい。

## 「世界のみかた」

筆者は、小2から小3の時にドイツ（当時の西ドイツ）に住んでいたことがあり、小4から中2まで「劇団ひまわり」に所属し、子役として活動していたことがある。

「ドイツ」のある片田舎の街に住み、現地の小学校に通い、現地の人達と交流したことで、「日本」とは異なる文化、ルール、価値観があることなどを知つた。また、「劇団ひまわり」に所属し、様々な「現場」を体験させて頂いたことで、「学校」とは異なるルール、評価のされ方、ヒエラルキーなどが存在することを知つた。

いわば「異なる世界」が、同時に重なつて存在しているように感じ、「世界」が変われば、「ルール」や「ヒエラルキー」も変わる」とを学んだ。例えば、勉強が出来ても、芸能の世界での評価に直接関係しないし、演技が上手でも、学校の成績は上がらない。

（なお、人類の個々の「世界」には、それぞれに多様な「テリトリリー（なわばり）」と、それを守るために付随する「ルール」と「階層性（ヒエラルキー）」が普遍的にみられるものと考え、進化学的視点からその起源について考察したものを、昨年11月の「精神科治療学」という医学誌に掲載させて頂いた。）

そのことが、これまでの己の人生にプラスだったか、マイナスだったかは分からぬし、どちらでもあるかもしれないが、それを原体験として、常に多様な視点から、意識的に物事を考えるようになつた。

筆者は、小2から小3の時にドイツ（当時の西ドイツ）に住んでいたことがあり、小4から中2まで「劇団ひまわり」に所属し、子役として活動していたことがある。

たようと思う。

右眼だけでみた世界と、左眼だけでみた世界が、多少だが「異なる」からこそ、両眼によつて世界は遠近的、立体的に、より「はつきり」と見える。そう考えれば、「右」の「視点」と、「左」の「視点」の、どちらか正しいかを争うのはナンセンスである。

「幻聴体験」は、客観的には「存在していない」が、主観的には「存在している」。どちらが「正しい」とか「真実」だと争うのは不毛である。

唯一の真理を探求する「物理学」の量子論においても、「シュレーク・デインガーの猫」という思考実験によって批判されたように、「生」と「死」が同時に重なつて存在しているというような人間の感覚的にはとても理解しがたい現象がある。

「光」も、波の性質と、粒子の性質とが同時に重なつて存在している。どちらかではなく、どちらもである。

我々の時空間を満たす物質的世界が存在する以上、鏡のようなもう一つ物質的世界が「同時に重なつて」存在しているはずだという量子論的推論

もある。

眉をひそめる読者もいるかもしれないが、我々が「時間軸」に捉われ過ぎているだけで、本来は「生」と「死」も視点の違いであり、時間軸を越えた次元において、量子論のように「同時に重なって」存在しているのかもしれない。仏教的視点では、「色、即是、空。空、即是、色。」である。

世界の宗教も多様であり、一神教もあれば、多神教もある。筆者は、多様な一神教と多神教が、同時に重なって存在しても良いのではないかという立場だが、無論そうでないという立場があつても当然である。同様に、一見対立する科学と宗教も、同じ現象を別の視点から捉えようとしているだけかもしれない、同時に重なって存在しても良いのではないか。

以前のコラムでも書いたが、病的な多重人格とは区別されるかもしれないが、誰もが多かれ少なかれ、多重人格的であり、少なくとも二重人格的であると考えている。「ジキルとハイド」は極端な例だとしても、程度の差はあれ、また良くも悪くも、誰もが「表の顔」と「裏の顔」を持つているのではないか。意識的にも、無意識的にも、その時々の周囲の状況に応じて、「顔」を使い分け、態度や行動を変化させているとも言えるが、筆者はむしろ本来はそれらが同時に重なって存在しているのではないかと考えている。

人類はコミュニケーションを発達させたことで、あまりに自明的となってしまっているが、「世界」の異なる二者間で、コミュニケーションが成立する」とは、本来「嬉しい」とあるし、決して「当たり前」ではないことに、臨床経験なども通じて今更ながら思っている。ただ、「成立」していると両者共に舌」的になつていると考へるし、また、本人以上に「周囲」がそれを望み、要請し、それが社会的に、対人関係的に「適応的」である場合もあるのではなかいか。むしろ「一枚舌」でない方が、「発達障害的」とみられることがある。

ただ、どれだけ「客観的」に世界を見つめようとしても、己の脳から「出る」とは出来ない。個々の「世界の全て」は、極論的には、個々の「脳」に存在しており、70億人いれば、70億の「世界」が「同時に重なって」存在している。70億人いれば、70億通りの「正義」や「不義」がある。さらに言えば、それぞれの生物種とそれぞの個体に、それぞれの「世界」があると考えれば、ほぼ無限に近い「世界」が同時に重なって存在している。ネコにしか分からない「世界」もあれば、ヒトにしか分からぬ「世界」があり、個々にしかわからない「世界」もある。また、今後どれだけ科学が進歩し、人知が深化しても、ヒトには決して分かりえない人知を超えた「世界」も、我々の「世界」と同時に存在している。

筆者のコラムも、読者によつて唯一一つとして同じ受け取り方はしないと思われるし、当然「誤解」もされうると考える。また、前回のコラムで述べたように、同一の読者であつても、時々の年齢や心理状態によつても受け取り方は異なるだろう。それでも、その多様性自体がとても大事であると常に考えるのである。

# 外来

## 外来での患者対応の検討ユマニチュードの使用経験

本庄児玉病院(以下、本院とする)の外来は、2017年の通院者は延べ1727人。約半数以上は、認知症の対応である。認知症の症状には、記憶障害を中心とした中核症状と行動心理症状(以下BPSD)がある。初診ではBPSDが顕著で受診に至るケースが多く、検査は難航した為、今までの様に接遇面に気をつけただけの対応でよいのか、専門的なアプローチが必要ではないのかと考え、通院先としての環境が安心できるように来院から帰院まで看護師としての働きかけについて話し合った。そこで今回、知覚・感情・言語による包括的なコミュニケーション技法である「ユマニチュード」に着目し、看護師がかかわる際の患者の様子について同伴者にアンケート調査をした。

● 今回ユマニチュードを意識した事で、あえて見る、あえて話しかけるなどの姿勢を崩さずアプローチしていく大切さを学んだ。今後更に安心できる通院先として努力していきたい。



## 2階病棟 オムツによる皮膚トラブル予防

本庄児玉病院(以下、本院とする)は、認知症専門の精神科である。本院当2階病棟は、病床数60床で12月25日現在、54名の認知症患者さんが入院されており、平均年齢は、79.5歳と高齢であり、平均入院年数も3.5~4.5年と長期化し、加齢、病状の進行、周辺病状に対する薬物調整などにより排泄動作が困難となり、リハビリパンツやオムツを着用している患者さんが44名と多数を占めている。

ケアを行っていく中で、オムツによる皮膚トラブルを起こしている患者さんも目立ち、対策としてオムツ交換時に、カートに安価であるプロペトを常備し、発赤などみらる時に、すぐに塗布するケアを行ってきた。以前は皮膚トラブル悪化し皮膚科に受診する患者さんも多かったが、プロペトを常用するようになってから、若干改善された様に感じる。

そこで、早期に行っているプロペトケアがどのような効果をもたらしているか、比較検討した。

● 安価であり、刺激性の少ないプロペトを予防的に使用することにより、ドライスキンが改善し、皮膚バリア機能を助け、オムツによる皮膚トラブルが予防できた。



## 3階病棟

### 経口摂取維持、向上を目指して 口腔機能へのアプローチ～アイスマッサージによる効果～

高齢になると食べるのに必要な筋肉の収縮力の低下や歯牙の欠損、唾液分泌の減少により咀嚼能力が低下し飲み込みにくくなることで摂食、嚥下障害が起こりやすくなる。予備能力の低下した高齢者では摂食、嚥下障害が誤嚥性肺炎や窒息などの重篤な合併症によって発見される場合がある。今回の症例のSさんも誤嚥性肺炎を引き起こし、経口摂取が一時中止となった。そこで、口腔ケアの中でも嚥下反射の誘発に効果があり認知症のため指示の入らないSさんにも実施可能なアイスマッサージに注目し、実施しどのような効果、結果に至ったかを報告する。

● 高齢者の楽しみを聞いたアンケート調査の結果の中で食事は「行事参加」「家族訪問」「テレビ」を差し置いて高齢者の楽しみの第一位であった。高齢者にとって「口から食べる」ことは寝たきり、脱水、栄養不足などの疾病、症候の予防だけでなく生きる意味を感じるなどQOLの維持、向上においても重要である。高齢者の看護を行っていく上では最後まで食べ続けることができるようなケアをしていきたい。



当院では、よりよい看護の提供ができるよう看護研究に取り組んでいます。

研究発表で学んだことを活かし、患者さまに温かな心のこもった医療の提供ができるよう、精進してまいりたいと思います。

# 院内行事



早稲田大学本庄高等学院プラスバンド部さまによる  
慰問演奏会

慰問演奏会  
お買い物バスツアー

- プログラム
- ♪笑点のテーマ
- ♪楽器紹介
- ♪上を向いて歩こう
- ♪世界に一つだけの花
- ♪男はつらいよ主題歌



まるで指揮者や、演奏を真似ているように身体を動かしたり、大きな声で歌ったり、患者さまは演奏をとても楽しんでいらっしゃいました♪



笑顔が素敵な生徒さんたちでした！！ 素晴らしい演奏をありがとうございました！！

## ペイシアお買い物バスツアー！！

作業療法

花壇



# 「むくみ」について

作業療法士室だより



今回は、「むくみ」について少しお話をさせていただきます。

むくみとは、医学的には「浮腫（ふしゅ）」といって、余分な水分が溜まった状態のことです。人の身体では、心臓から送り出された血液が動脈を通って全身へと運ばれます。その血液中の血漿成分が細胞間液となって、細胞に栄養や酸素を運ぶのです。そして、細胞に栄養や酸素を運び終えた細胞間液は、細胞でいらなくなつた老廃物や二酸化炭素を回収して、再び血漿成分となって静脈を通り心臓に戻るほか、一部がリンパ管に流れ込み、最終的には静脈と合流します。ここで、血流が悪くなったりスムーズに流れなくなったりすると、心臓から遠い足先や指先などの末梢にまで血液が行き渡らなくなります。ここで問題なのは、血液が行き渡らないということは、老廃物や不要な水分も回収できないという点です。通常、血液は栄養分や酸素を全身に届けた後に、老廃物や不要なものを回収して戻るのですが、血流が悪くなるとそのどちらもできなくなり、老廃物や水分が細胞の間に溜まってしまうため、むくみが起こります。また、足は心臓から遠く、さらに心臓よりも下にあるため、重力の影響を受けることで循環が悪く、特にむくみやすいと言われています。

そこで、足の静脈やリンパ管の流れを助けているのが「第二の心臓」と呼ばれるふくらはぎです。ふくらはぎの筋肉が、心臓と同様に、ポンプのような働きをすることで、静脈やリンパ管の流れをスムーズにしています。ところが、運動不足によってふくらはぎの筋力が落ちると、ポンプ機能が上手く働かなくなるので、むくみやすくなってしまいます。また、立ちっぱなしや座りっぱなしなど、長時間同じ姿勢でいると、ふくらはぎのポンプ機能が休止状態になるため、むくみにつながります。むくみ予防として、以下の運動が良い、と言われています。



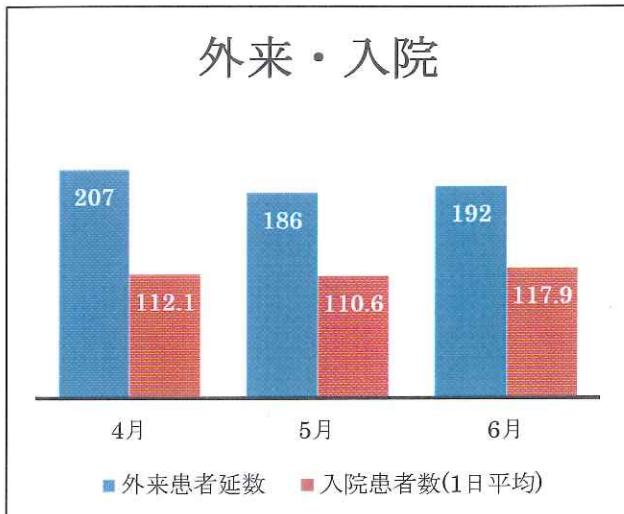
- ①1時間に1回は席を立って歩くようにする。
- ②椅子に座ったまま、踵の上げ下ろしをして、ふくらはぎの筋肉を使う。
- ③椅子に座ったまま膝をのばし、足首の曲げ伸ばしをする。

年をとると、だんだん外出するのがおっくうになり、家でテレビをみたりして座っている時間が長くなってしまうものです。もし最近、外出や散歩・運動をしていないな、と感じていたり、足のむくみが気になっている方は、まずは上記の運動をしてみてはいかがでしょうか？



## 外来診療担当医

	月	火	水	木	金
午前	高野	高野	齋藤	新谷	新谷
午後	齋藤	高野	齋藤	新谷	新谷



## 栄養課

### ●栄養課での取り組み●

- 当院では週に3日、昼食と夕食に選択メニューを実施しております。
- 肉料理や魚料理、麺類など、患者さまご自身にお好きな方を選んでいただいています。
- また、月に1回のお誕生日会ではケーキとお茶（コーヒーまたは紅茶）を提供しており、今月はチョコ蒸しケーキを提供しました。ケーキが食べづらい方へはストロベリーババロアを提供しました。



## 理念

患者さまの権利と尊厳を尊重し、笑顔と愛の心で  
全人医療へ奉仕します

## 基本方針

- 私達は、地域に密着した精神科医療の提供と的確な認知症のケアを実践します。
- 私達は、患者さまの意思と人権を尊重し、心の通つた、愛の心で医療を提供します。
- 私達は、患者さま並びにご家族の信頼を得、満足度の向上に努めます。
- 常に医療技術の研鑽と知識の習得に努め、安全で良質な医療を提供します。
- 私達は、理念達成のため、健全経営の維持向上に励みます。

## 患者さまの権利

- 当院では、患者さまと信頼関係で結ばれた「患者さま中の医療」を行うことを目指しています。ここに「患者さまの権利と責任」を掲げ、これを尊重致します。
- 安全で適切な医療を公平に受ける権利があります。
  - 人権とプライバシーに配慮される権利を有します。
  - 検査、治療、その他の医療行為に同意し、選択あるいは拒否することができます。拒否した場合においても不利益を生ずることなく、同様な治療を受けることができます。
  - 医療の情報を知り、セカンドオピニオンを受ける権利があります。
  - 精神保健福祉法等の法律に基づいた適切な手続きが保障される権利があります。
  - 患者さまは、以上のもの、治療上のルールを守り、医療を受ける権利があります。

### 一診療科目一

精神科 平日 AM 9:00~12:00  
PM 2:00~ 5:00

TEL 0495-73-1611

FAX 0495-73-1616

休診日 土曜日午後・日曜日・祝日・祭日  
(土曜日午前)

入院随時 各種保険取扱い  
完全予約制となっております。

### 一診療時間一



## 編集後記

今年の夏はとりわけ暑いようですが、皆さまお変わりありませんか？月並みですが、熱中症にはくれぐれもご注意を。水分補給をこころがけ、栄養・休息をとり、上手に夏を乗り切りましょう！！



## ストリートビューQRコード



施設周辺の道路沿いの風景をパノラマ写真でご覧いただけます。こちらのQRコードを読み取ってご利用ください。

院内の雰囲気もお楽しみいただけます！



## 編集発行

2018年7月

医療法人(社団)明雄会 本庄児玉病院

広報誌グループ

〒367-0212 埼玉県本庄市児玉町児玉 720

TEL. 0495-73-1611 fax. 0495-73-1616